

教職員の皆さんへのメッセージ

昨年度は新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、本学も様々な対応を余儀なくされました。昨年4月、就任早々の挨拶で「東京都と一帯の地域にある本学としては、東京都の感染状況などを注視しつつ、走りながら考え、対応することになるだろう」と申し上げました。実際、昨年5月には「新型コロナウイルス感染症対応マニュアル」を、6月には「埼玉大学学生行動指針」を策定するとともに、政府の緊急事態宣言、埼玉県知事の緊急事態措置を受けて、キャンパスへの入構制限を行いました。各学部・研究科ガイダンス及び第1・2タームにおける授業は遠隔（実験・実習・実技等は第2タームから対面で実施）で実施し、第3・4タームは遠隔授業を原則としつつも、感染症防止対策を講じることができる授業（実験・実技・実習を含む）は対面での実施としました。これらの新しい講義形態に加えて、大学入学共通テストや個別試験では普段にも増して周到な準備を行っていただくなど、年間を通して多大な労力が必要となったことについて、教職員の皆さんには誠に申し訳なく思っております。一方、この1年間を振り返って、大きな問題もなく現在に至れたのは、皆様のご尽力の賜物であります。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

昨年度は上記の他にもいくつかの新しい試みを行うことができました。迅速かつ機動的な意思決定の実現および大学執行部と部局との緊密な連携の強化を目的として部局長会、副学長会を新設し、定期的に様々な事項について議論してきました。また、家計の急変により生活が困窮した学生を支援するため、埼玉大学基金「埼玉大学修学サポート基金」を活用した本学独自の奨学金「埼玉大学緊急支援奨学金」の設立（1600人を超える学生に奨学金を給付することができました）、昨年5月には、「多様性」（ダイバーシティ）と「包摂」（インクルージョン）の理念を明確に掲げた「埼玉大学ダイバーシティ宣言」の制定、9月には、ウィズコロナ、ポストコロナ時代の課題に対応するため、「社会の変革を見据えた新たな発展に向けた変革ビジョン（埼玉大学発展・変革ビジョン）」の策定を行いました。大学の組織改革として、現行の教育学研究科の修士課程を廃止し、令和3年度から教職大学院へ一本化する改組について認可されました。本年3月には埼玉医科大学との包括連携協定を締結し、キックオフシンポジウムを開催しました。また、本学の取組や研究トピックなどの情報を発信するために、記者会見を2回開催しました。

新年度になった現在も新型コロナウイルス感染症の収束は見えずに第4波の到来が懸念されるなど、予断を許さない状況ではありますが、学生の来学機会の確保と学修効果を考慮して、4月1日より、感染拡大防止に最大限配慮しつつ、大学の入構禁止を解除するとともに、ハイフレックス形式の講義も取り入れて対面授業5割以上を目指します。そのため、多くの学生がキャンパスに来るようになります。新1年生だけでなく、新2年生も大学のシステム

に不慣れで不安を抱えていることと思いますので、学生が戸惑わないよう、また、孤立して孤独にならないよう、学生のケアに特段のご配慮をいただけますよう教職員の皆さんにお願い申し上げます。

また、昨年度は国からの「学びの継続」に加え本学独自の給付型奨学金の学生支援を行いました。埼玉大学基金には、その後も多くの方からのご寄付をいただいております、今年度も昨年度同様、生活が困窮している学生を対象にした本学独自の給付型奨学金の支援を行いたいと思います。詳細が決まりましたら改めてお知らせ致します。

さて、今年度は第3期中期目標・中期計画期間の最終年であり、第3期で掲げた目標を達成する必要があります。また、同時に第4期中期目標・中期計画を策定しなければなりません。大学の使命である、教育、研究、社会貢献を最大限に進めることを念頭において、オールインワンキャンパスを活かした教育の多様化や融合研究の推進、そのための教職分離の実質化及び教員と職員が一体となって大学機能をさらに活性化させるための教職協働の実現などを第4期中期目標・中期計画に加えたいと思います。是非、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

年頭の挨拶でも申し上げましたが、新型コロナウイルス感染症の性質や治療方法が徐々に明らかにされてくるとともに、ワクチンの接種も始まりました。接種が順調に進めば、今年度の後期からは対面授業をさらに増やし、学生の課外活動の範囲も広げられるのではないかと期待しています。

かつてのスペイン風邪も今は普通の風邪になっているように、今回のパンデミックも必ず終息します。希望を持って新年度をスタートさせたいと思います。

本年度もどうぞよろしく願いいたします。

令和3年4月6日
埼玉大学長 坂井貴文